

海外だより

## リオデジャネイロ五輪 OWS 調整合宿をサポートして

筑紫女学園大学現代社会学部 栗木 明 裕

この度、一昨年（2015年）のリオデジャネイロ五輪のオープンウォータースイミング（OWS：Open Water Swimming）日本代表チームの調整合宿（2016年8月2日～10日）に帯同する機会を頂きましたので、報告させていただきます。今までの学術的な「海外だより」とは色合いが異なりますが、このような活動をしている会員もいるということで、暖かい心で通覧して頂ければと思います。

### 1. これまでの経緯

私は大学のゼミでスポーツ医学を学び、その影響で「理学療法士」になりました。理学療法士として1999年より救急病院に勤務し、内科、循環器、外科、整形外科など幅広く関わりました。この経験は今でも健康教育に関して多くの示唆を与えてくれています。そして、就職と同時にスポーツに関わりたいという思いから、トレーナー活動を開始しました。当時、水泳に関わるトレーナーは非常に少なく、日本選手権においても数えるほどしか帯同していない状況でした。そのような時代であったこともあり、2001年の世界水泳選手権福岡大会では日本代表チームトレーナーのサポートとして関わる機会を頂きました。マリンメッセでの世界初の仮設プール、全盛期のイアン・ソープ選手、世界への扉を開いた北島康介選手、テーマ曲のB'z「ultra soul」など印象深い大会でした。その後、細々とではありましたが活動を継続してきたお陰で、現在では日本水泳連盟の仕事をして頂くようになりました。

### 2. オープンウォータースイミング

オープンウォータースイミングは、海や湖といった自然の中で行われる長距離の水泳競技のことであり、水質、天候、潮汐、潮流など自然の影響を受けます。さらに、コースロープはなく水上のブイを回るため選手同士の衝突があり、競泳とは異なった集団内のポジショニングやコース取りなど泳力以外の知識・技術も必要です。

競技距離は五輪種目では10km、世界選手権では5km・10km・25kmがあり、2017年世界水泳選手権より5km男女混合リレーが加わりました。競技時間は

10kmでは2時間程度、25kmでは5時間程度要するため、泳ぎながら補水や補食をする非常に過酷でユニークな競技です。

五輪出場権の獲得は国際的に非常に厳しい規定がありますが、選手達の活躍により日本は最大の男女各1名枠を獲得しました。そのため、リオ五輪 OWS 日本代表チームは代表選手男女各1名、コーチ2名、総務1名、トレーナー1名（私は調整合宿のみ帯同し、その後は選手村のトレーナーに引継）で構成されました（写真1）。

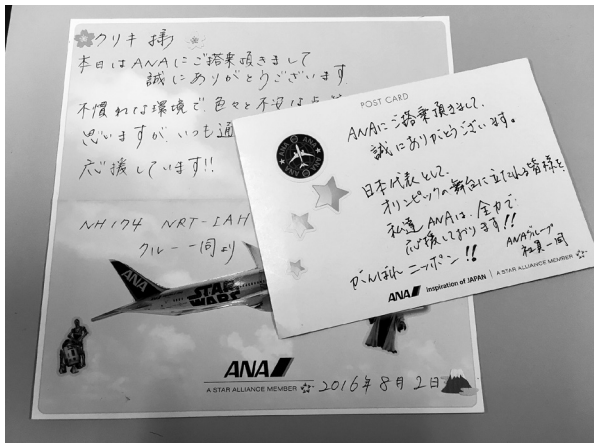


（写真1） リオ五輪 OWS 日本代表チーム（右端が筆者）

### 3. 日本からブラジルへ移動

羽田からヒューストン経由でサンパウロに向かいました。すでに海外で強化合宿をしていた選手やコーチとはヒューストンで合流する予定となっていたため、日本からは総務スタッフと私の2名、そして、大量のチーム荷物とともに出発しました。

アメリカへ向かう機内では、客室乗務員から五輪関係者へのメッセージカードを頂きました（写真2）。今までにも国際大会に帯同させて頂く機会がありましたが、他の大会とは異なる周囲の期待と盛り上がりを実感した出来事でした。「サポートスタッフの私にも…」と恐縮しながらもありがたく頂戴しました。その様子を見ていた周りの日本人乗客にも話しかけられ、互いの地元が福岡であることに盛り上がりながら、水泳競技の見所をアピールしました。そして、経由地のヒューストンでは日本からのテレビ取材クルーや競泳



(写真2) 機内で頂いたメッセージカード



(写真4) 日本移民ブラジル上陸記念碑

出身のレポーターも乗り換えのために待機しており、改めてビッグイベントであることを認識しました。

#### 4. サントス市

オリンピック当時のブラジルは消防士や警官のデモ、治安の悪化、ジカ熱など様々な問題が報道されており、一抹の不安を感じながらも無事にサンパウロに到着しました。空港から合宿地のサントス市への移動には警察の護衛が付き、スムーズに移動することができました。移動中の車窓からは、日本とは違う風景の奥に繁栄と貧困の市民生活が垣間見えて、いろいろ考えさせられる場面がありました。これも海外遠征の大切な部分だと思います。

サントス市は日本人移民が最初に到着した港湾都市(写真3)です。海辺の公園にはその記念碑(写真4)があり、100年以上前に地球の裏側まで何ヶ月も船にゆられて到着したであろう日本人のロマンを感じました。また、ペレ、三浦知良、ネイマールが所属したサッカー強豪チームのサントスFCの本拠地でもあり、オ



(写真3) ホテルから海辺の景色



(写真5a) サントスFCのロッカールーム(中央はペレのロッカー)



(写真5b) サントスFCのコンディショニングルーム

フの日には地元のボランティアスタッフにスタジアムを案内して頂き、ロッカールーム、コンディショニングルーム、インタビュールームなどを見学することができました(写真5a, b)。



## 5. 調整合宿

合宿は地元のサンタ・セシリア大学（Universidade Santa Cecília）のプール（写真6）で行われました。ブラジル、イタリア、ロシアなど他の国々も合宿を行っており、中にはリオ五輪1500m自由形金メダリストのイタリア人選手もいました。イタリアチームとはホテルも同じでしたので、夜はリビングに集まり、テレビ中継で競泳の応援をしました（写真7）。この大学のプールは、選手たちの練習時間外は地元のスイミングスクールも使用しており、地元のスイマーが我々の練習が終わるのをプール脇で待っている姿がありました。プールのすぐ側には学内カフェやスポーツショップが隣接しており、スポーツシーンをとても身近に感じることもできる環境があり、スポーツが生活の一部として親しまれている雰囲気を感じました。練習の合間には、サンパウロ州総領事、地元の水泳連盟関係者や幼稚園児の訪問があったり、テレビ局の取材を受けたりと注目度は高く、選手やコーチも笑顔で応えていました（写真8a, b, c）。



（写真6） サンタ・セシリア大学プール



（写真7） イタリア代表チームと五輪観戦



（写真8a） 総領事の訪問（サンパウロ新聞より）



（写真8b） 地元子どもたちの訪問



（写真8c） 地元メディアの取材

## 6. トレーナー活動

トレーナーの業務はトレーニングやコンディショニングが主な仕事です（写真9a, b）。スケジュールは午前と午後の2回のプール練習に同行してトレーニングやコンディショニング、ホテルでは疲労回復のためにマッサージなどを行いました。OWSのトレーニングは、競泳よりも比較的距離の長いインターバルトレーニングや時には競技距離を一気に泳ぐ過酷なトレーニ

ングがあるため、合宿中はリカバリーへの対応が非常に重要でした。今回はプールのみでの練習でしたが、屋外で練習することもあるため、その際は日焼けや脱水などへの配慮も必要になります。また、少人数の遠征には、基本的に医師は帯同しないため、携行薬品の管理も行います。今回は、すでに競泳競技が始まっていたため、選手村のチーム医師と適宜連絡を取りながら対応しました。

合宿は非常に順調に進み、男子代表の平井選手は近年最速ラップで泳ぐなど上々の仕上がりを見せ、女子代表の貴田選手も心身ともに充実している様子が見えられました。2人ともロンドン五輪代表経験者でしたが、4年前からさらに進化したパフォーマンスを十分に期待できる仕上がりででした。この合宿を終えると選手たちは選手村に入り、会場で最終調整に入る予定でした。私はここでお役御免となり、サンパウロの空港で選手たちを見送った後、不要なチーム荷物とともに帰国の途につきました（写真10）。



（写真9a） トレーナー活動の様子



（写真9b） トレーナー活動の様子



（写真10） 空港での見送り

## 7. 所感

五輪の結果は、近年非常にレベルが高くなっているOWSにおいて、平井選手が8位入賞、貴田選手がロンドンと同じ12位と優秀な結果を残しました。選手たちの積み重ねてきた尊い4年間の最後の10日間程しか関わっていませんが、自分のことのように嬉しく、今まで観てきたどの五輪よりも感動的でした。

今回の帯同では、トレーナーとしては、食事やトレーニング時間など選手やコーチと密にコミュニケーションをとることができたため、効果的に活動できたと思います。また、事前に他の合宿に関わっていたトレーナー達と持ち込み障害やこれまでの練習や治療経過に関する情報を共有し、調整合宿中は競泳チーム本体の医師やトレーナーと情報を共有することができたため、メディカルチームとして有機的に連携した活動ができたと思います。OWSチームとメディカルチームの一員としてどのように動くべきかを再確認することができました。

個人としては、4年に1度の貴重な舞台に関わらせて頂き、オリンピックの五輪に対する覚悟やそこに到達するまでの過程を直に垣間見ることができて、メディアには出ない彼らの姿を知ることができました。そして、我々の普段の生活にも般化できるような彼らのライフスキルの高さに感銘を受けました。また、現地の人々との交流を通して、スポーツの持つ力を体感することができました。言葉に表すことは難しいのですが、この経験はスポーツに関わる者として貴重な糧となると思います。

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて多くの人やものが動いています。この五輪ムーブメントが、より多くの人々に素晴らしい影響を与えることを切に願いつつ、報告を終わらせて頂きます。



## 久留米大学

久留米大学 満園良一

2018年に90周年を迎える久留米大学は、福岡県筑後地区に位置し6学部（医学部・商学部・法学部・文学部・経済学部・人間健康学部）と5研究科（医学研究科・比較文化研究科・心理学研究科・法務研究科・ビジネス研究科）、分子生命科学研究所などの10を越える研究所・センター、そして附設中学校・高等学校、医学部附属臨床検査専門学校、大学病院等2つの病院を擁し、約7000人が学ぶ私立総合大学である。

「真理と正義を探求し、人間愛と人間尊重を希求して、高い理想をもった人間性豊かな実践的人材の育成を目指すとともに、地域文化に光を与え、その輝きを世界に伝え、人類の平和に貢献することを使命とする」と言う本学の基本理念は、長く地域医療や地域経済など地域におけるボトムアップの地道な貢献を積み重ねてきた歴史につながる。その延長上に、本学OBである日本医師会の横倉会長の存在もある。一方、久留米大学は九州医学専門学校を開祖とする九州最古の私立大学として歩みを重ねて今に至ってきた。なお、キャンパスは、久留米市内に医学系の旭町キャンパスと文系の御井町キャンパスの2箇所に分かれるが、23年ぶりに経済学部以来の新たな学部、人間健康学部が文医融合の象徴として御井町キャンパスに誕生した。

その人間健康学部は、スポーツ医科学科と総合子ども学科の2学科からなり「カラダごとまるごと。」を標語に発足したが、「カラダごとまるごと。」は文医融合をも表す。ちなみに、後者については文学部社会福祉学科子ども福祉家庭コースが保育士養成に加え幼稚園教諭の免許取得と併せた幼保一体化と言う社会的要請を受け総合子ども学科として医学部との連携を前提に独立したものである。医学部との連携については、幼保における発達障害などへの対応が念頭にある。また、スポーツ医科学科についても、従来の（附置研究所であった）健康・スポーツ科学センターが経済学部の学生を対象に14年間にわたり行ってきた、日本体育協会公認アスレティックトレーナーの資格教育などをもとに、発展させたものである。既に医学科とは健康・スポーツ科学センターによるアスレティック

トレーナーの資格教育時から協力を受けていたものの、さらに医学科および看護学科との連携を意味し、「医」が入る学科名称の所以である。その連携は、講義系科目に留まらず、一定の条件を満たした上で受講可能な解剖実習や整形外科系手術の見学実習にも反映される。また、テーピング実習などスキルアップに必要な実習（写真1）だけではなく、附設高校生を対象にしたCPRの実習などに見られるような（写真2）より実践的な実習の場をもつ。さらに、医師とアスレティックトレーナーとの連携でトレーナールーム（写真3）を火曜および金曜に週2日定時開設し、学生トレーナーの実習現場として今に至っている。



（写真1）テーピングの授業風景



（写真2）CPR・AEDの実習



(写真3) トレーナールーム

スポーツ医科学科は健康やスポーツの支援者の養成、加えて教育者、指導者として地域社会に貢献できる人材養成を目指し、日本体育協会公認アスレティックトレーナー（JASA-AT）受験資格とともに、トレーニング指導者（JATI-ATI）受験資格、中級障がい者スポーツ指導員、健康運動指導士受験資格などと、中学校・高等学校教員免許（保健体育）を取得できる。これらは「からだと社会」「からだと環境」などの視点を備え、自らの身体から社会全体に至る的確な状況把握と分析能力を広く社会において活用するためのスタートとなる学びでしかない。なお、学科としては健康運動指導士受験資格と、中学校・高等学校教員免許（保健体育）が新たに加わったものであり、学生が目指す限り医学・医療系の前述した実習環境も履修可能であり、共有出来る。つまり、保健体育の教員や障がい者スポーツ指導員が、スポーツ競技横断的にスポーツ傷害予防、そしてスポーツ傷害受傷後にスポーツやトレーニングへの復帰に必要なリハビリテーションなどに積極的に関わられることを目指す。

スポーツ医科学科は、これまでのスポーツ系、体育系などの学部、学科に顕著な競技者養成を主たる目的としていないものの、スポーツやトレーニングの環境は必須である。その点については、体育館やグラウンド

など従来の環境に留まり、人工芝グラウンドや（今ある屋外プールではなく）屋内プールなどの環境整備は新しい学科としての課題であり順次、準備を進めている。但し、（体育館である、みいアリーナ1階の）トレーニング・ルームは、スポーツ医科学科開設に伴い、アリーナ（写真4）開設時から17年目にフリー・ウェイト系の機器を全て入れ替え、改たな教育に備える準備を整えた（写真5）。



(写真4) みいアリーナ



(写真5) 新装なったトレーニングルーム